

大学の世界展開力強化事業（平成 29 年度採択）中間評価結果

大 学 名	広島大学
整理番号	A102
事 業 名	先端技術を社会実装するイノベーション人材養成のための国際リンケージ型学位プログラム

大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

総括評価 A	これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
<p>コメント</p> <p>本プログラムは、インドの技術系トップ大学等と共同で、革新技術を社会へ実装する高度イノベーション人材や地域課題に沿った技術開発の誘導と社会への定着をリードする人材の養成を目的としている。</p> <p>プログラム自体が大学の新長期ビジョン SPLENDOR PLAN 2017 に組み込まれており、国際協働や国内外における情報共有など、大学の国際化を目指す全学的な取組として、クロス・アポイントメント制度や外国人研究員制度による外国人教員の雇用を進めるとともに、国際化に対応すべく事務機能の強化を図るなど、概ね計画に沿って実施されている。学生の受入・派遣もほぼ計画どおりに実施され、そのサポート体制も整備されている。プログラム修了認定に際しても、各取組でコンピテンシーの修得と学修成果の双方から質の保証を担保しつつ評価を行っている。</p> <p>一方で、交流学生数に関して、受入・派遣ともに全体としては中間評価までの目標は達成しているものの、日本からインドへの単位取得を伴う3か月未満の交流以外は大幅に下回っているほか、交流相手先大学ごとの派遣・受入の交流形態別の実績に偏りが見られるなど、今後の課題として対応が必要である。また、外国語力の向上に向けた取組には一定の成果が見られるものの、外国語力基準をクリアした日本人学生数については目標値を下回っていることから、目標達成に向けた努力が求められることや、受入学生が取得した単位が在籍大学で確実に単位互換されるよう、引き続き協議を進めていくことを期待する。さらに、産業界との連携に関して、民間企業から積極的にプログラムに参画を得るための工夫や、プログラムを通じて育成した人材のその後の各種調査を実施しプログラムの運営に活かすなど、目的の達成に向けた取組が望まれる。</p> <p>最後に、今後も補助期間終了後の安定的な財源確保に努めるとともに、学内や関係機関との質保証を伴う国際教育連携の推進と将来の我が国の更なる発展に向け、積極的にプログラムを展開していくことを期待する。</p>	